



平成 29 年 4 月 12 日

ビッグデータ分析に基づく金融商品購買予測モデルの本格導入について

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）は、A I（人工知能）の活用により、お客さまの属性情報や取引履歴等のビッグデータから金融商品毎の購買確率などを予測するモデル（以下、「予測モデル」）を構築し、平成 29 年 4 月より本格導入いたしましたので、お知らせします。

今回構築した予測モデルは、平成 27 年 12 月より協業しているフィンテックベンチャーのゼネリックソリューション株式会社（代表取締役 小西 亮介）が開発したソフトをもとに、当行が保有する各種データや営業手法などの知見を組み込んだ仕様となっております。

当行は、これまでの試行運用において一定の効果を確認できたことから、この予測モデルを銀行システムに搭載し、おもにお客さまへの資産運用提案のシーンで活用していく予定です。これにより、お客さま一人ひとりに最適な商品を、最適なタイミングで、最適なチャネルにて提案する「オムニチャネル化」の実現を図ってまいります。

さらに、今後は、インターネットバンキングの取引データやホームページの閲覧データ等も反映させ、モデルの改良を図っていくとともに、「TSUBASA金融システム高度化アライアンス」*加盟行ともノウハウを共有し、マーケティングの高度化を目指してまいります。

【ゼネリックソリューション株式会社概要】

所在地	東京都渋谷区南平台町 1-9 南平台宝来ビル 4F
代表者	代表取締役 小西 亮介
資本金	2 億 5,095 万円
事業内容	データマイニング、ビッグデータ解析、分析用ソフトウェア販売
主要取引先	パルシステム生活協同組合連合会、株式会社栄光、株式会社大地を守る会 株式会社電通、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ（NTTデータ）

*フィンテックをはじめ先進的な I T 技術を調査・研究するために発足した枠組みで、現在、千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行の 6 行が加盟している。

以上